

足利市立御厨小学校いじめ防止基本方針

本校では、いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、心身の健全な成長・人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、生命・身体に重大な危険を生じさせる行為であると捉えています。また、いじめは全ての児童に関係する問題であり、いじめ防止の対策を実践することで、全ての児童が安心して学校生活を送り、様々な活動に楽しく取り組むことができると考えています。そこで「いじめはどの児童にも起こりうる」「いじめることは人間として絶対に許されない行為である」との認識のもと、いじめの未然防止の取り組みと早期発見・早期対応の徹底に努めます。

いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）が公布・施行されたことを受け、第13条の規定に基づき、児童がこれまで以上に、楽しく、安心して学校生活を送ることができるよう、本校のいじめ防止、いじめの早期発見・早期対応の対策を総合的かつ効果的に推進するための基本方針を策定します。

いじめ防止対策推進法 第13条（学校いじめ防止基本方針）

学校は、いじめ防止基本方針または地方いじめ防止基本方針を参酌し、その学校の実情に応じ、当該学校におけるいじめの防止などのための対策に関する基本的な方針を定めるものとする。

1 いじめの防止のための基本理念

- (1) 全ての児童が学習その他の学校生活を安心して送ることができるよう、学校内外を問わず、いじめが行われなくなるようにします。
- (2) 全ての児童がいじめを行わず、いじめを認識しながらこれを放置することがないよう、いじめが許されない行為であることを児童が十分に理解できるようにします。
- (3) 学校、市教育委員会、家庭、地域その他の関係者との連携のもと、いじめの問題を組織的に克服することを目指します。
- (4) 「足利市立御厨小学校いじめ防止基本方針実践のための行動計画」を設け、その計画に基づき、基本方針の実践に努めていきます。

2 いじめの防止の基本的な考え方

いじめは、何より発生させないことが重要であり、発生した場合には、早期発見し、迅速かつ組織的に対応する必要があります。

(1) いじめの定義（いじめ防止対策推進法 第2条第1項）

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

(2) 組織的な対応

- ・校内にいじめに係る組織（いじめ・不登校防止対策委員会）を常設し、組織的対応の強化を図ります。
- ・いじめをはじめとする児童指導上の諸問題に関する校内研修を年間計画に位置づけ、全ての教職員の共通理解を図るとともに、具体的対応力の向上を図ります。

(3) いじめの未然防止

- ・ 道徳の時間を中心としながら教育活動全体を通して、児童に「いじめは決して許されない」ことを理解させ、思いやりや助け合い、規範意識などの心を育て、望ましい人間関係を築ける環境を構築します。
- ・ 児童が、いじめ問題について正しく理解し、いじめを自分たちの問題として捉え、その解決に向けて自主的に行動することができるよう指導します。
- ・ 教職員の言動が児童を傷つけたり、他の児童によるいじめを助長したりすることがないように教職員の人権感覚を磨き指導に細心の注意を払います。
- ・ インターネットなどの持つ利便性と危険性を理解させ、情報機器の適切な使い方を指導します。

(4) いじめの早期発見

- ・ いじめを早期に発見するために、日頃から児童との信頼関係を深め、児童の言動から不安や悩み、思いや願いを把握し、教育相談の充実を図ります。
- ・ 教職員のいじめに対する指導力を高める研修の充実を図ります。
- ・ 児童、保護者、地域からのいじめに関する相談や通報の窓口を明確にします。

(5) いじめの対応

- ・ いじめを把握した場合、組織的に事実確認を正確かつ迅速に行い、いじめを受けた児童の安全確保を図ります。
- ・ いじめを受けた児童とその保護者へ親身な支援を行いつつ、いじめを行った児童の背景を十分理解した上で、毅然とした指導と保護者への助言を継続的に行います。
- ・ 必要に応じて市教育委員会や関係機関との連携を図ります。

(6) 重大事態への対応

- ・ 重大事態とは、いじめにより児童の生命、心身・財産に重大な被害が生じた疑いや、相当期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認められる場合を指します。(いじめ防止対策推進法 第28条第1項)
- ・ 重大ないじめの対応については、市教育委員会や足利警察署と連携し、「いじめ対策委員会(随時)」が中心となり、学校組織をあげて対応します。
- ・ いじめを受けた児童とその保護者およびいじめを行った児童とその保護者に対して、調査によって明らかになった事実関係について、経過報告を含め、適時適切な方法により、その説明に努めます。また、当該児童やその保護者の意向を十分に配慮した上で、保護者会などで全ての保護者に説明し、解決に向けて協力を依頼します。

(7) 家庭、地域との連携

- ・ 家庭、地域と密接に連携し、児童を見守ることに努めます。
- ・ 家庭に対し、その保護する児童がいじめを行うことのないように必要な指導に努めることおよびいじめの加害・被害に関わる心配がある場合には、学校や関係機関との連携に努めることについて啓発を行います。
- ・ 地域に対し、児童を見守る取り組みを推進することおよびいじめの疑いがある場合には、学校や関係機関への情報提供に努めることについて啓発を行います。

(8) 関係機関などとの連携

- ・ 必要な指導を行っているにもかかわらず十分な効果を上げることが困難な場合、足利警察署や児童相談所など関係機関との適切な連携を図ります。

足利市立御厨小学校いじめ防止基本方針実践のための行動計画

1 組織的な取り組み

いじめの問題は、特定の教員が抱え込むことなく、組織的に対応することが重要であるので、いじめに係る2つの委員会を設置する。なお、いじめの事実確認を行う場合は、本組織を主体とし、必要に応じて関係職員を加える。また、学校だけでは対応が困難な場合は、市教育委員会などとの連携を図りながら対応に当たる。

(1) いじめ対策のための委員会

① いじめ・不登校防止対策委員会（月1回程度開催）

【構成】

校長、教頭、主幹教諭、児童指導主任、学習指導主任、学年主任、養護教諭
教育相談担当 など

【取り組み内容】

- ・いじめ不登校防止の全体指導計画の立案
- ・いじめの未然防止・早期発見・早期解決の手立ての検討
- ・いじめの事実確認
- ・校内研修の企画
- ・定期的なアンケートや教育相談の実施と結果の分析・共有
- ・いじめが起きた場合の再発防止策の検討

② いじめ対策委員会（重大ないじめの対応に係る委員会）（随時開催）

【構成】

校長、教頭、主幹教諭、児童指導主任、学習指導主任、学年主任、学級担任、養護教諭
教育相談担当 関係職員スクールカウンセラー、学校評議員、保護者代表 など

【取り組み内容】

- ・重大事態に係る調査
- ・指導方針の決定、指導体制の確立
- ・調査結果の市教育委員会への報告と保護者への説明

(2) 校内研修

- ・「いじめが起らない学校づくり」「いじめの早期発見」および「いじめの早期解決」など、いじめに関するあらゆる知識・情報を教職員全員で共有する研修を行い、教職員全員が、児童・学級・保護者の実情に応じて適切に対処できるようにする。

2 いじめの未然防止

(1) 計画的な指導

学校組織としてのいじめ問題の取り組みについて評価を実施し、結果に基づいた改善を図る。

(2) いじめの起らない学校づくり

「いじめはどの学校、どの児童にも起こりうる」との認識のもと、未然防止の取り組みの充実を図り、いじめの起らない学校づくりに努める。

① 学級づくりや学習指導の充実

- ア 「帰属意識の高い学級」「規範意識の高い学級」「互いに高め合える学級」を目指し、学びに向かう集団づくりに努める。
- イ 集団がいじめ根絶に向けた活動を自主的に行うための指導に努める。
- ウ 個の違いを尊重し、その良さを認め、多様性を実生活に活かす学習活動を行う。

② 道徳教育の充実

- ア 道徳の時間と各教科での指導および体験活動との関連を図り、道徳的実践力を育成する。
- イ 人権週間に合わせ、道徳の時間に「いじめ問題」を題材とした授業を実施する。
- ウ 情報モラルについて考え、モラルを持って情報を活用しようとする態度の育成に努める。

③ 特別活動の充実

- ア 望ましい集団活動を通して、人間関係を築く力を育てる。
- イ 自然体験活動や宿泊学習など様々な体験活動の充実を図り、生命や自然を大切にする心や他人を思いやる優しさ、社会性、規範意識を育てる。
- ウ 児童会活動においては、委員会活動・クラブ活動・縦割り班活動を通して、児童の主体的な活動を推進しながら、より良い人間関係づくりを目指す。

④ 人権が守られた学校づくりの推進

- ア 児童一人一人が、自他の人権の大切さを認め合うことができるよう、様々な場面を通して指導する。
- イ 一人一人の児童の人権に関する不安や悩みの把握に努める。
- ウ 教職員自らの言動が児童を傷つけたり、他の児童によるいじめを助長したりすることがないように、教職員一人一人が人権感覚を磨き、指導に細心の注意を払う。

⑤ 保護者や地域との連携

- ア 地域内の中学校との連携した取り組みを実施する。
- イ 学校便りなどで保護者や地域へ情報を発信する。
- ウ 学校公開や授業参観において道徳の授業を実施する。

⑥ ネットいじめへの対応

- ア 情報モラルの向上を図る授業を実施する。
- イ SNSなどの便利さや使うときのルール・マナーが理解できるよう、発達段階に応じた指導をする。
- ウ 個人情報大切に、適切に対応することができる態度の育成に努める。

3 いじめの早期発見

(1) 早期発見のための認識

- ① いじめは、大人が気付きにくく判断しにくい形で行われるということを、教職員一人一人が強く意識します。
- ② 些細な兆候であっても、いじめではないかとの疑いをもって、早い段階から複数の教職員で的確に関わり、いじめを軽視したり、隠したりすることなく、いじめを積極的に認知する。
- ③ 日頃から、児童の見守りや信頼関係の構築に努め、児童が示す小さな変化や危険信号を見逃さないようにする。

(2) 早期発見のための手立て

児童が相談しやすい環境を整備し、教職員は児童理解を深め、信頼関係の構築に努める。

ア 児童、保護者へいじめの相談・通報の窓口を周知する。

イ 児童に対して、定期的なアンケート調査や教育相談を実施する。

ウ 家庭と連携してネットいじめの早期発見に努める。

エ 放課後の打ち合わせで、気になる児童の情報を教職員全員で共有し、いじめ・不登校防止対策委員会において組織的に対応する。

4 いじめの対応

(1) 早期解決のための認識

① 組織的に事実確認を正確かつ迅速に行い、いじめを受けた児童を守り通すとともに、いじめを行った児童に対しては、「いじめは決して許されないこと」を毅然とした態度で指導する。

(2) 早期解決のための対応

① いじめが認知された場合には、特定の教員で抱え込まず、いじめ対策委員会を中心として、関係児童への聴取や緊急のアンケートの実施など、的確かつ速やかに事実確認を行う。

② いじめを受けた児童を守り通す。また、いじめを行った児童に対しては、教育的配慮のもと毅然とした態度で指導を行い、「いじめは絶対に許されない」ということを理解させ、自らの行った行為に対しての責任を自覚させる。

③ いじめの疑いがあることを認識した場合、その場でその行為を止めさせたことで安易に解決したと思いつくことなく、組織的かつ継続的に対応する。

(3) 児童、保護者への支援

① いじめを受けた児童とその保護者に対する親身な支援と、いじめを行った児童の背景などを十分に理解した上で、毅然とした指導およびその保護者への継続的な指導・助言を行う。

② 周りではやし立てる児童に対しては、はやし立てることは、いじめていることと同じであることを理解させる。また、いじめを見ていた児童や見て見ぬふりをする児童に対しては、いじめを止めることはできなくても、教職員に知らせる勇気を持つよう支援する。

③ いじめは許さないという断固たる姿勢のもと、学級・学年・学校全体の指導を行う。

(4) 関係機関との連携

① いじめの解決に向け保護者や市教育委員会、関係機関・団体との連携を図る。

② いじめが犯罪行為として取り扱われるべきと認めるときは、足利警察署と連携して対処する。

(5) 解決後の継続的な指導・援助

① いじめが解決した後も、継続的にいじめを受けた児童といじめを行った児童の様子を観察しながら、組織的に指導・援助に努める。

② いじめを受けた児童といじめを行った児童および周りの児童が、好ましい集団活動を取り戻し、新たな活動に踏み出せるよう集団づくりを進める。

5 重大事態への対応

(1) 市教育委員会に報告するとともに、足利警察署などの関係機関に通報し、適切な援助を求める。

(2) 当該いじめの対処については、市教育委員会と連携し、弁護士、医師などの専門家の協力を仰

ぎながら、原則として本校のいじめ対策委員会（重大ないじめの対応に係る委員会）が中心となり、学校組織をあげて行う。特に事実関係を明確にする調査については、市教育委員会と連携しながら実施するが、本校主体の調査では、重大事態への対応に十分な結果が得られないと市教育委員会が判断した場合や、本校の教育活動に支障が生じるおそれがあるような場合には、市教育委員会の指導に従う。

- (3) いじめを受けた児童とその保護者およびいじめを行った児童とその保護者に対して、調査によって明らかになった事実関係について、経過報告を含め、適時適切な方法により、その説明に努める。また、当該児童やその保護者の意向を十分に配慮した上で、保護者会などで全ての保護者に説明するとともに、解決に向けて協力を依頼する。
- (4) いじめ対策委員会を中心とし、速やかに学校としての再発防止策をまとめ、学校組織をあげて着実に実践する。